

四国国際理解教育研究会

「愛媛県立北上高等学校 教諭 越智由佳 先生」にお聞きしました！

ネットワークの目的は何ですか？

四国の開発教育・国際理解教育を推進するための研究と実践を行うことです。

今、何名くらいが所属しているのですか？

約 20 名が所属しています。

どのような方、団体によって構成されているのですか？

開発教育・国際理解教育に興味・関心のある個人および団体です。

JICA 教師海外研修の参加者を中心に結成し、主に教員・NGO・大学生などで構成されています。

会合等はどれくらいの頻度でされているのですか？

1 年に 3 回の研究会を行っています。(各学期 1 回をめざす)

<第 1 回>総会及び教材研究

<第 2 回>公開授業

<第 3 回>まとめと教材研究・
情報交換など

平成 28 年度は以下のとおり実施

第 1 回： 8 月 総会・教材研究（高知大学）

第 2 回： 12 月 講義（早稲田大学 山西優二氏）・教材研究（高知大学）

第 3 回： 1 月 公開授業（四万十町立窪川小学校）

第 4 回： 3 月 教材研究・総会<予定>

活動の概要は何ですか？

開発教育・国際理解教育の理論と実践の研究 / 教材作り / ネットワーク作り

ネットワークを立ち上げた時期はいつ頃でしょうか？

平成 28 年に四国におけるネットワークとして本ネットワークを作ることになりました。

立ち上げはどのような経緯だったのですか？

「四国はひとつ」を合い言葉に、高知県の四万十町立窪川小学校の坂山英治校長先生を中心にたちあげました。

立ち上げ前、帝京第 5 高等学校の今井大介先生と私が教師海外研修に参加した際に、坂山先生のお話を聞く機会がありました。坂山先生の「過疎の村でも地球市民を育てる」というポリシーを持って国際理解教育に情熱をかけられている姿を見て感動しました。また、青年海外協力隊の勤務を終えられ、国際理解教育を行いたいという思いで教員免許を取得し、その後教職に就かれたという坂山先生の経験を、これから進路を決める高校生に聞かせたいと思いました。そこで、平成 27 年の夏に、両校の生徒を含めた勉強会を企画しました。坂山先生はもちろん、新居浜工業高等専門学校の吉川貴士先生（インドネシアでの技術協力経験）

や、JICA 四国からも多くの方が集まって高校生に話をしてくださいました。ゲストのみなさんの話に感動した生徒が、その後自発的に、自分たちでゲストスピーカーを招待して、平成 28 年の冬に、第二回の勉強会を立ち上げてくれました。生徒たちの普段とは違う真剣な表情を見て、私たちは、国際理解教育についてもっと学びたいと思いました。そういった経緯があり、同時期に、「国際理解教育の風を創る会(※)」に参加させていただく形で、平成 28 年に四国におけるネットワークとして本ネットワークを作ることになりました。

※坂山先生が取り組まれる国際理解教育に関心のある高知県の教員が中心となって構成される組織



第 2 回勉強会にて（高校生企画）



聞き入る高校生

運営に際して苦労されていることは何ですか？

- ・四国は交通の便が良くないので、開催場所をどこにするかを考えています。（来年度は愛媛県の東予地方が集まりやすいかと思っています）
- ・現在、四国国際理解研究会といいながら、高知県と愛媛県の参加者ばかりですので、香川県と徳島県の先生に声をかけていきたいと思っています。

個人活動ではなく、ネットワークならではのメリットは何ですか？

- ・教師海外研修に参加した年は、国際理解教育の実践を行うのですが、その後の実践が難しくなるという話が多くあります。また、授業数の確保や、偏差値偏重主義の中で、国際理解教育の継続にくじけそうになることも多々あります。しかし、前述のように、生徒たちが成長していく姿を見ると、やっぱり続けたいと思いますし、せっかく教師海外研修に参加させていただいた経験を活かし続けたいと思います。そこでネットワークがあると、そこが「ホーム」のような気持ちになれます。また、互いに切磋琢磨をし、教材や授業を研究しながら、刺激を受けることができ、モチベーションを保つことができます。今後も継続していこうと思っています。
- ・学びあうことはもちろん大切ですが、私が勉強会を企画したり、研究会に参加したりするいちばんの動機は、仲間である先生方と会うのが楽しいからです。ここは、ずっと大切にしたいと思っています。例えば、

生徒との勉強会では、自費にも関わらずゲストのみなさんが喜んで参加してくれました。また、坂山先生が、フランスでのテロから学ぶ授業をしてくださったとき、男子学生が涙を流したこともあります。一人ではできないことが、ネットワークではできると思いました。

・最初は、まったく興味のなかった生徒たちが動き始め、第 2 回の勉強会を企画し、今年度は、カンボジアで活動している同郷の青年海外協力隊員を訪問するまでに成長しました。教師として、生徒が成長する姿を見ることがいちばんの喜びとなります。

・なにより、楽しい時間が持てます。



刺激を受けた生徒たちが立ち上げたカンボジアプロジェクト 同郷の協力隊員のもとを訪れる



ゲストスピーカーの坂山先生の講義

今後取り組みたいこと何ですか？

・平成 29 年 1 月に開催された JICA 地球ひろば主催の「ネットワーク協議会」で新しく知り合った他のブロックの方々と、今後もつながっていきたいと思っています。

・中国地区のネットワーク（サンネット中国）とは企画を共有していきたいと思います。

・北海道のネットワーク（D-net）から講師として四国に来ていただきたいと思っています。